3. 2015 年度活動の概要の記述

１．研究テーマ

今年度は、これまで最新の理論を取り入れつつ進めてきた「スキル統合型テスト」の作成及び評価方法についての研究を、実践に結びつけることを目指して様々な検証と模索を行った。その際に中心としたテーマは、「Assessment literacy を踏まえたスキル統合型テスト作成のためのチェックリストの精緻化」と「スキル統合型テストを将来入学試験に利用する可能性とその問題点」であった。どちらのテーマについても新しいアセスメントの方法を教師教育に反映していく必要があるため、教師教育に関する書籍も読書会で取り上げた。

2. 活動内容

(1) 上記目標に沿って下記の言語テスト、アセスメントに関する書籍の読書会を行い、各章について、毎月の例会で担当の委員が発表し、ディスカッションを行った。

・Green, A. (2014). *Exploring Language Assessment and Testing: Language in Action*.

・Wilson, R & Poulter,M. (2015). Assessing Language Teachers' Professional Skills and Knowledge (Studies in Language Testing #42).

(2) 評価に関するワークショップを開催し理論と実践の融合を図った。

学部及び大学院で英語科教育法を受講している学生を主たる対象として 9 月 10 日にワークショップを実施した。昨年度に引き続き新学習指導要領の目標の一つである「スキル統合的指導と評価」をテーマに掲げ、アセスメントの基本的な理論、構成概念、評価法、項目分析に関する講義、モデル授業、参加者によるテスト作成とその批評活動及び評価結果の分析を行った。

(3) 学会発表において研究成果を共有し、分析・議論を深めた。

読書会から得た知見に加えて、国内外のスキル統合型テストの評価方法の分析、毎年開催しているワークショップのアンケート分析結果を基に、スキル統合型テスト作成のための Can-do チェックリストの精緻化を図った。マクロの側面では、そのようなテストを入学試験に利用する可能性と問題点を考える一方で、個々の教員が日々の授業の中でスキル統合型テストを作成できるように、上記 Green の唱える Assessment Cycle の考え方を反映させたテスト作成モデルを考案した。これらの結果をまとめて、7 月に JACET 関東大会（青山学院大学）、8 月に JACET 国際大会（鹿児島大学）、11 月に JALT 全国大会（静岡）で発表やシンポジウムを行った。

3. 今後の活動予定

来年度はさらに実践の場に踏み込んで、実際にスキル統合型テスト作成を指導するワークショップを数回行い、そこから得られたフィードバックを基に日本の教育現場に適した代表的なテスト項目の種類、作問・評価方法などを考慮したガイドライン及びハンドブック作成を進める。

・関東 JACET（早稲田大学）、JACET 国際大会（北星学園大学）、PAAL 国際大会（台湾）、JALT 全国大会(名古屋)などでワークショップや成果発表をする予定である。

・初めての試みとして、宮崎県教育委員会の後援を得て宮崎国際大学と JACET テスト研究会主催のワークショップを行う計画を進めている。
・昨年に引き続き夏に 9 月にワークショップを開催する予定である。
・テスト研究会の年次報告書と Monograph No.3 を刊行予定である。